

## 未知の言語をどう解釈するか

未知の言語の捉え方と第一言語の関係について

今泉 碧斗

### はじめに

今井・針生(2003)によると第一言語の獲得、特に語彙の獲得には認知バイアスが効果的に作用しているという(今井・針生 2003)。では、外国語習得において、バイアスは効果的に作用するのだろうか。第一言語習得においては対称性バイアスや相互排他性バイアスなどが効果的に機能する(須藤他 2013)。これらは外国語学習でも同様に習得に役立つ働きをすると考えられる。

第一言語の習得とは異なり、外国語の学習では、思考の整理がしばしば第一言語により行われる。そのため、第一言語の運用に慣れている状態では、第一言語に起因するバイアス、例えば文構造や語順などへの先入観が外国語学習を阻害すると予想される。

この研究では、未知の外国語を扱う際に、第一言語での思考が外国語の理解を妨げるかどうかを検証する。帰無仮説：第一言語による思考が外国語の理解を妨げず、回答にその影響が見られない。

### 方法

架空の言語を設定し、その例文と訳文から文構造や単語について推測してもらう実験を行う。実験は Google Form に回答してもらう形式で行った。被験者は言語学Bの受講者および現在東工大に通っている学生、合計20名。

設定した言語の文法について簡潔に述べる。

基本となる文構造はVOSの形で、名詞の格は名詞の語頭で区別される。動詞の時制は動詞の語尾で区別される。

質問は3問用意し、それぞれ①文構造の推測、②単語“loma”意味の推測、③推測した文法から「彼は私を見る」という文を作文(「見る」という動詞として“wuse”という新しい単語を与えた)、というものになっている。

### 結果

回答者の第一言語に関する調査を行ったところ、英語が1名、タイ語が1名、日本語が18名であった。

表1では各設問に対する回答者数を示している。また、図1では実験で提示した使用した例文を示している。表から、最も多く選ばれた文構造はSOVであることがわかる。第一言語が英語の回答者はSOVを、タイ語の回答者はVOSを選んでいった。

また、正しい文構造であるVOSを選択した人は、

# 結論：第一言語による思考は、外国語の理解を妨げうる。

表1 それぞれの設問に対する回答者数を示す表。②、③、④の分母は、①の回答者数を表しおり、分子は正解の単語を回答した人、正しく作文できた人、第一言語を「日本語」と回答した人の数を表している。

選択肢	OSV	OVS	SOV	SVO	VOS (正解)	VSO
①文構造を選択した人数	0	1	11	2	6	0
②単語の正しい意味を推測できた人数	0	1 / 1	1 / 11	0 / 2	6 / 6	0
③正しく作文できた人数	0	0 / 1	0 / 11	0 / 2	1 / 6	0
④第一言語を「日本語」と回答した人数	0	1 / 1	10 / 11	2 / 2	5 / 6	0

### 例文 / examples

彼はリンゴを食べる。 / He eats an apple.  
loma naeta katera.

彼女はリンゴを食べた。 / She ate an apple.  
lomati naeta kasola.

私は彼のバナナを食べるだろう。 / I will eat his banana.  
lomaru nafanula satera kamina.

図1 実験で被験者に提示した架空言語の例文とその訳文

(見る 私を 彼は)  
正答: Wuse namina katera.  
誤答: Wuse kamina katera. (格を表す部分が違う)  
誤答: Loma lomaru wuse. (文構造、単語の意味が違う)  
(食べる 食べるだろう 見る)

図2 設問③作文問題の回答の一部。「彼は私を見る」という文を作文する

単語の意味についても正しく推測できたことがわかる。

③の誤った回答のパターンとして、文型が正しくない場合や、「私」を意味する名詞の格が正しくない場合が見られた。図2に一部の回答を示す。

### 考察

およそ半分の回答者11名が文構造として、日本語と同じ文型であるSOVを選び、そのうち10名が日本語を第一言語としていたことから、日本語のものとは異なる文構造を無意識に拒否していると考えられる。よって帰無仮説は棄却できる。また、②の正解率から正しい文構造を選択した人は文中の単語の位置から単語の意味を推測できたと考えられる。③で名詞の格を正しく推測できていないと思われる回答が見られた。これは、例文から「私は」に対応する単語を抜き出してそのまま使用したため、であると考えられる。今回のような形式の問題が与えられた時、単語の意味や問題で示された文型に注意が向き、名詞の格は意識されにくい傾向にあると考えられる。

回答者の意図を知るために、それぞれの質問で回答の根拠も併せて尋ねるべきだったと考える。とくに正しい文構造を選べた人については、どこに注目して考えたのかより詳しく調べる必要があると思う。

### おわりに

本研究では架空の言語を設定しその文法や単語の意味を推測する質問を通して、第一言語の思考が外国語理解にどのように影響するかを調査した。

結論として、はじめに予想したように、未知の外国語を扱う際に、第一言語による思考が外国語の理解を妨げることが言える。これは、自分の知っている文法に当てはめて考えようとする経験則に基づく認知バイアスが原因と考えられる。そのため、外国語学習でははこの効果を考慮し、客観的な視点に立つための効果的な学習法を工夫することが求められる。

### 文献

今井むつみ 針生悦子、『レキシコンの獲得における制約の役割とその性質』, 人工知能学会誌, 18巻1号, 2003年1月, p39-40

須藤洸基 的場隆一 萩原信吾 中村誠 東条敏, 『第一言語獲得における認知バイアスに基づいた言語知識修正』 p2-4日本認知科学会第30回大会, 2013年9月13日